

「考える」大宰相

吉田 忠 雄

故大平正芳先生との出会いは、池田総理をお訪ねいたしたとき、一緒におられご紹介をいただいたのですから、もつかれこれ二昔前ということになります。

想い出と申しますと、その間には皆々様と同様にいろいろと数限りなくありますが、いま改めて思いますことは、何時のときでも教えられることが大変に多かったということに尽きます。なかでも、いまま記憶に鮮やかなことは、さる昭和五十三年一月七日、私もＹＫＫグループの新年会にご臨席を賜った折のことです。

当時、大平先生は自由民主党の幹事長という要職にあられたことはかりでなく、新年早々ということで、政務も大変にご多忙でありましたのに、会場である帝国ホテルに駆けつけて下さいました。

その時、先生は次のようなお話をされました。

「以前、ある会社を訪問いたしましたところどの部屋に行きましても『THINK』と書いた紙が貼ってありました。ひとことで申しますならば『つねに考えよう』ということなのでしょうが、実に簡単な言葉でありながら、これほど人間にとって大事なことは他に無いのではなからうかと頭の中に深く刻み込まれました。人間は考えるからこそ前例のないものを創り出すことができるのであります。考えるからこそ人間が人間らしく生きられるのであり、豊かさを享受できるものであると存じます。今日、ＹＫＫがありますのは、その『考える』ことを連綿として積み重ねてこられたからに他ならないと、私は存じますのでございます。」

大変に光栄でありましたが、先生のお話は、概ね以上のようなことでありました。

当日、二千人を超えた会場からは、大きな拍手が波のように広がりましたが、私は、先生のお話をうかがいながら、先生こそ「THINK」の権化ではなからうかと、日頃の先生のご活躍振りに、改めて思いを至したものでした。と、いいますのは、先生にお会いする機会は度々ありましたが、いつもご挨拶程度で私どもの事業についてこと細かくご説明いたしたことは、皆無と申してよいほどであったからであります。

恐らく、大平先生は、私どもの言葉の端々から、YKKという会社をお考えになつておられたのであろうと存じますが、つねづね、私どもが考えておりますことを、実に単刀直入に申されましたのは本当に驚きました。

と同時に、先生は、何時、如何なるときでも、決して話をないがしろにはされず、誠心誠意耳を傾けておられますことを感じ、心から嬉しく、そしてたのもしく、改めてご尊敬の念が沸々とほとばしるのを禁じえませんでした。

先生は、その年の十二月、第六十八代の首相にご就任され、前にも増してご多忙の身となれましたが、新年会のことを何時もお心にかかれ、私どもは恐縮至極でご遠慮申し上げておりましたのに、ご臨席を賜り、そのご恩に對しまして何とかしてお報いしたいという熱い気持ちに全員が心を駆られたものであります。

その人の心を使う暖か度広いお心、あの風格のある政治姿勢、そして確固たる哲学に裏付けられた信念の強さと大きさは、誠に宰相と称されるにふさわしい方でありました。

いまは、ただただ、先生の西方浄土での安らかなご冥福をお祈りするばかりですが、先生のご薫陶の数々は、私並びに私どもグループ全員のよき指標とさせていただきます。末長く語り伝えてまいりたいと存じます。合掌。